

三田循司と太宰治

盛岡市観光文化交流センター館長 中村光紀

昨年、太宰治の生誕一〇〇年の六月十九日、花巻で太宰治の未公開ハガキが発見され、全国的に話題を呼んだ。彼と生前交友のあった花巻出身の夭逝の詩人三田循司(じゅんじ)に宛てた五通とその弟愼(せい)宛の一通である。

その後、北上の「日本現代詩歌文学館」で展示されたこの資料を、同館と所蔵者の妹三田綾子さん、発見者の赤澤征夫さんのご協力で、旧制岩手中学で学んだ三田循司を盛岡の方々にも知ってもらいたいと、六月十日から八月二〇日まで青春館で公開の運びとなった。

三田循司は、一九一七年(大正6)花巻市に生まれ、私立岩手中学校から仙台の旧制二高を経て、東京帝国大学文学部に入学した。東大在学中の四〇

年(昭和15)二高時代から親交のあった戸石泰一らと同人誌『芥』(あくた)を発刊し、三田は詩を発表していた。

その頃、戸石と三鷹にある太宰治の

自宅をたびたび訪れ、文学について教

えを受けるなど兄事した。そして、太

宰と親交のある作家、山岸外史(昭和

三七年『人間太宰治』)からは、三田の

詩の才能を高く評価された。

四一年(昭和16)に戦争のため東大

を三年で繰り上げ卒業して、翌年石集

盛岡北部第62部隊に入隊後、四三年(昭

和18)「アツツ島の玉砕」によりわずか

26歳の若さで戦死した。

太宰治は、四四年(昭和19)雑誌「新

若人」三月号に掲載した短編小説「散

華」で、三田循司を実名で登場させた。

太宰は三田の詩の才能について、出征

後に受け取った四通の三田からのハガ

キを引用して、その資質について疑問

を感じながら論じていたが、最後に受

け取った一通に感動を受けたことが、

散華を書くきっかけだった。

「御元氣ですか。

遠い空から御伺ひします。

無事、任地に着きました。

大いなる文學のために、

死んで下さい。

自分も死にます、

この戦争のために。」

当初、山岸外史ほど三田の詩を評価

していなかった太宰は「私に『死んで

下さい』とためらわず自然に言ってく

れたのは、三田君ひとりである。なか

なか言えない言葉である。こんなに自

然な調子で、それを言えるのは、三田

君もついに一流の詩人の資格を得たと

思った。」と、その感動を記した。

(兼もりおか啄木・賢治青春館館長)

編集：財団法人盛岡観光コンベンション協会(企画管理部)

〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1-1-10 プラザおでつて4階

TEL:019-604-3300 FAX:019-653-4417

<http://www.hellomorioka.jp> E-mail:plaza@odette.or.jp

プラザ
おでつて

開館10周年



創建100周年